

# 新刊紹介

## 密教概論 高神覺昇著

高神覺昇氏は新義眞言宗内の新進の宗學者として令名ある人であり、既に「佛敎序説」等の名著を公にして居られる。本書は古來秘密の敎へとして容易に一般學徒の窺知をゆるさなかつた密敎を極めて明瞭平易に述べたものである。その道の古典を縦横に諳破して、その結論を組織的に叙述したものであるから、徒らに新しい解釋を施して、古來の傳統や信仰を離れるやうな危険は本書にはないと信ぜられる。しかも古典の重要な文句言説をそのまま、羅列的な煩瑣な註脚風の著述では現代の人々に理解され難いのみならず、満足させることが困難であるが、本書者は西洋哲學その他所謂新しい學問を十分に觸んで、しかも著者の血となり肉となつた密敎の敎理を叙述されたのであるから、その説明は大抵現代の人々にもよく理解されると思はれる。専門の佛語も成るべく、哲學上の學語を用ひて言換へたり、敷衍したり、註解してあるから讀者はすらくと理解することが出来る。

本書はもと學生相手に講義された内容を整理修正されたものださうである。初歩の者に密敎を理解させることが主になつてゐてこの點に於てはほど遺憾はないと信するが、他宗の者が讀んで、他宗の敎理と密敎の敎理との差——例へば顯敎では法身説法を認めないのに、密敎ではそれが中心となつてゐるが如き點には、説明がや、他宗の者を首肯せしめ得ないではないかと思ふ。勿論本

書の直接目的はそこにはないのであるし、直接の目的は既に述べ成せられてゐることは疑はない。

## 和歌論語 見尾勝馬著

論語の各篇各章を大體朱註によつて、短歌に翻譯したものである。本書は論語の前半即ち郷黨第十までを收めてある。論語そのものの研究には大して參考にはならないであらうが、論語の文言が、幾らか和らげられて居り、記憶しやすくなつてゐるから、社會の風敎上には資益することが少くないであらう。

長短さまざまであり、難解な論語各章を三十一文字にはめこむのは變な事ではないであらうが、中には雅馴を缺きはしないかと思はれる譯も少くない。(高橋紹介)

## 寄贈雜誌新聞

哲學雜誌	昭和六年四月	五三〇號
精神科學	同 四月	六年二卷
眞宗研究	同 三月	四一號
生理學研究	同 三月、四月	八卷三號、八卷四號
大社會學徒	同 二月、三月、三月二六卷二號、二六卷三號	五卷三號
理想	同 四月(ヘーゲル死後百年記念號)	二二號
學校敎育	同 四月	二一四號
敎育問題研究	同 四月	五八號
基督教研究	同 四月	八卷三號